

分別徹底を！ペットボトルはふたとラベルを外して！

ごみの減量に取り組んできた私たち。家庭系ごみの有料化がスタートし、多摩市指定のごみ袋を購入するようになったのは遡ること10年以上前のこと。2008年の4月からでしたね。

あわせて、分別徹底にも協力し、日の出町にある最終処分場の延命化、埋め立てゼロ目標も達成することができました。一方、暮らしを便利にするプラスチック類はますます増加傾向に。小家族に合わせた個包装、飲料は缶からペットボトル化の傾向はますます進んでいます。それに伴い、「資源物回収」＝資源ごみの排出量、特に**ペットボトル類は増加の一途**をたどっています。これは私たちにとっても重大な課題と言えます。

本来は「ふた」「ラベル」を外す原則。

過日、私の所属する生活環境常任委員会では資源回収の拠点でもある「多摩市立リサイクルセンター(エコプラザ多摩)」の見学を行いました。

その際、「多摩市のペットボトルは東京都多摩地域の中で最も分別ができていない！」と言われているとの衝撃的事実を知ることとなりました。

これまで、リサイクルペットボトルを引き取る「日本容器包装リサイクル協会」では「ふた」「ラベル」がついたままでの回収も行っていたそうですが、現在は、回収ルールをより厳格化し、「ふた」「ラベル」を外すことが義務となり、正しく分別できているかどうかで引き取り価格が左右されるようになりました。



市内企業が廃棄したもの 分別が徹底
市民が廃棄したもの

ルールが変わってます！

現在、多摩市では「ふた」「ラベル」を外すこととルール変更をしています。

しかし、私たちには「外さなくてよい」という意識が定着しており、そのために、「ペットボトルの正しい分別が出来ていない市と市民」になっているようです。この残念な状況を挽回したいですね。改めて、ルールの再確認とご協力をお願いします。(でも、ペットボトルはなるべく買わないで！私はマイボトルを持参しています！)

HISAKA'S Profile

1977年 兵庫県神戸市生まれ／1989年 北諏訪小学校卒／1992年 桐朋女子中学校卒
1995年 桐朋女子高等学校(普通科)卒／1999年 中央大学法学部政治学科卒
1999年～2002年 中小企業金融公庫(今の日本政策金融公庫)勤務／2002年4月 多摩市議会議員補欠選挙当選／2006年 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了(公共政策学修士)／2017年～2019年 多摩市議会第31代議長
2020年現在 議員歴6期18年 諏訪2丁目在住

市議会レポートほうれんそう

岩永ひさかへのご相談は・・・

ご用件と希望する連絡先を留守番電話へ！必ず折り返します。

TEL 042-371-0763 留守番電話専用

2020年秋 第157号

多摩市議会議員

岩永ひさかのほうれんそう

所属会派 フェアな市政 発行者 岩永ひさか
連絡先 多摩市諏訪2-2 B410
TEL/FAX 042-371-0763

ブログ更新中!!
ご意見も随時
募集しております!

<http://www.iwanaga-hisaka.net/>



「総合的に…」 「俯瞰的に…」 が行政用語として流行り言葉になりそうですね。説明できないことを説明するために便利使いされる用語になってしまっただけは困ります。「総合性」と「俯瞰性」をどこで誰が、どのような基準で判断したのかについて、説明すること…国民も市民も求めていることだと感じています。

さて、先ごろ終わった定例会。私は熟考を重ね、思慮した結果、新型コロナウイルス感染症による影響を考えると、今、「計画していることだから」と旧北貝取小学校の大規模改修(総額では10億円を超える事業。今後の運営には5千万～6千万/年とも答弁がされている)をそのまま進めていくことには反対しました。また、図書館本館の再整備(総額では50億円規模のプロジェクト。今後の運営費も現在の本館運営以上に必要となる)についても、まだ着工をしていない段階であり、本来は、しっかりと事業内容そのものも見直ししながら、今しばらく検討期間を設けることも必要ではないかと考えています。もちろん、現段階での設計は完了しているとはいえ、状況が状況だけに、将来的に及ぼす影響を考えると時間が求められると思うからです。

以前から主張しているように、私たち市民は一時的に多額に必要な建設工事費用だけでなく、将来にわたって何十年と施設を運営していくための運営費も負担していかねばなりません。そして、今後は老朽化している地域集会所などもますます負担増になっていくと予測されています。

人口減少社会、日本の経済状況、「新しい生活様式」なるものを意識しながら、将来にわたって、子どもたちの未来に備えた「新しい市政」を考えていく必要があると思います。さらには、新型コロナ渦で生活が激変し、苦境に陥っておられる皆様の暮らしはもちろんのこと、更なる高齢者の増大に伴う医療・福祉・介護への支援…。総合的に考えた結果、私は今回、補正予算案に反対し、昨年度決算も不認定としました。

市民の方のご意見もさまざまあるかと思いますが、どうぞ、忌憚のないお声を寄せてください。これからの活動に活かしていきます。

冬への準備が始まる秋の深まり…どうぞお身体にはご自愛ください。

2020年そろそろ紅葉始まる季節を前に…

岩永ひさか

子どもの育ちを支える拠点づくりを考える

～諏訪商店街にオープンしたカフェ・リバティの取組み。

■想いをかたちにしていこう
～‘だんらん’の場をつくりたい！

昨年11月に諏訪商店街に子ども子育て拠点の新たな試みとし「カフェ・リバティ」が開設され、1年が経とうとしています。現在、1階のカフェの定休日は毎週水曜日と土曜日・日曜日ですが、スペースとしての利用は現在は365日可能です。

運営にあたるのは、3年ほど前から諏訪小学校ランチルーム、こぼと保育園ホールを毎月1回、交互に利用しながら‘誰でも食堂’を主宰してきたハーモニークラブです。ハーモニークラブは多摩市の子ども食堂の先駆けとし、地域のボランティアのみなさんにも力を借りながら活動をしてきました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に合わせ、カフェ・リバティも閉鎖し、親子だんらんの場としての‘誰でも食堂’は休止してきましたが、少しずつ活動を再開しています。「カフェ・リバティ」は通常営業に戻り、「だれでも食堂」の活動は、毎週月曜日のみ、希望者にはお弁当の配布(大人は300円)に変えて、再開しています。「新しい生活様式」を意識しながらの活動再開ですが、「カフェ・リバティ」も少しずつ定着してきました。

■まずはお互いの信頼関係を育んでいくために。

ちょっとしたお困りごとの相談…特に子育てのことについては、「地域で子育て」とはいえ、挨拶を交わすような関係性をつくることすら難しい時代とも言えます。行政は「気軽に相談事があれば受け付ける」と窓口を開いているものの、実際には相談者にとっては窓口の敷居は高いのではないのでしょうか。相談するというのは、本当に勇気が求められ、一人で抱えてしまう場合も多いと思います。

実際に、私のところに相談に来られる方の多くも「もっと、早く相談すればよかった」とおっしゃってくださるかたも多いものです。

その意味で、少しずつ顔の見える関係をつくりながら、ちょっとした相談ができる場所として「カフェ・リバティ」が存在になってほしいと願っています。「子どもからの相談を直接受け止める場」になれることも目標になりそうですね。



カフェ・リバティでは、ランチメニューと季節のパフェなど、手づくりスイーツも充実！

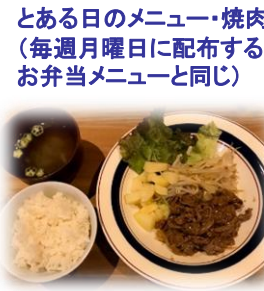
これは私が一押し「和栗ペースト」を使用しています。冬は「焼き芋」のパフェが絶品！

■市民力でどこまで頑張れるか？

現在、「カフェ・リバティ」では、新たな試みとして、子どもたち向けの放課後カフェを実施しています。保護者の仕事の都合などで、放課後に家でひとりぼっちになる時間をフォローし、宿題など、自習にも取り組める場の提供を始めています。学習時間が終われば、みんなでご飯も食べ、くつろぐ時間を共有しています。



ボランティアさん
(元学習塾の経営者)



とある日のメニュー・焼肉
(毎週月曜日に配布するお弁当メニューと同じ)

現在は毎週月曜日に実施していますが、なるべく子どもたちの希望に合わせてるようにとスタッフは時間の調整を行っています。もちろん、理想はもっと開設曜日を増やし、毎日場所を開放することかもしれませんが、まだまだ資源が不足しており、ボランティアの確保と資金面からも、これから充実を図っていくことが今後の課題です。



「イエナプラン」学習会には多くの方が参加

■いろんな人が関わり、「地域の子育て」を支える場に。

カフェ・リバティの2階はフリースペースとしての貸出も実施していますが、少しずつ利用者も増えつつありますが、なかでも私が注目しているのはオランダの「イエナプラン」の考え方を取り入れた「学びの場」づくりの活動がスタートすること。

多摩市でも今の学校にはなかなか馴染めずにいる子どもたちへの場づくりは課題のひとつですが、「個性の尊重と徹底的な対話」を重視し、「世界一の教育」とも評価されているのが「イエナプラン」。「主体性」と「協調性」を育むための「徹底的な対話」による全人教育が魅力的です。

不登校対策をはじめ、一人ひとり子どもたちの育ちを大切にできる環境づくりは未来の担い手づくり。私自身の活動テーマのひとつです。

ハーモニークラブの活動にも関わり、カフェ・リバティでの学習支援の活動などにも関わりながら、子どもたちと地域にある課題を捉えながら、解決策を描いていきたいと思っています。子どもに優しい地域は誰にとっても居心地のいい、やさしい地域ではないかと私は考えているからです。

1階のカフェは居心地も抜群。キッチンスタッフが温かく迎えてくれます。ぜひ…お立ち寄りください。